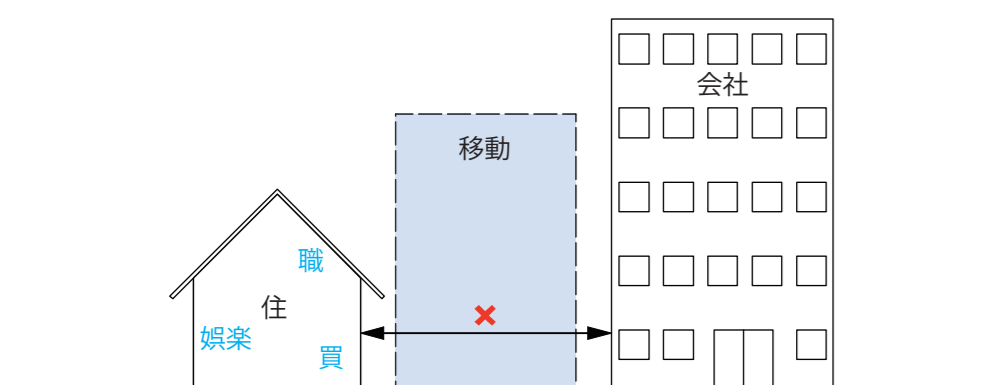


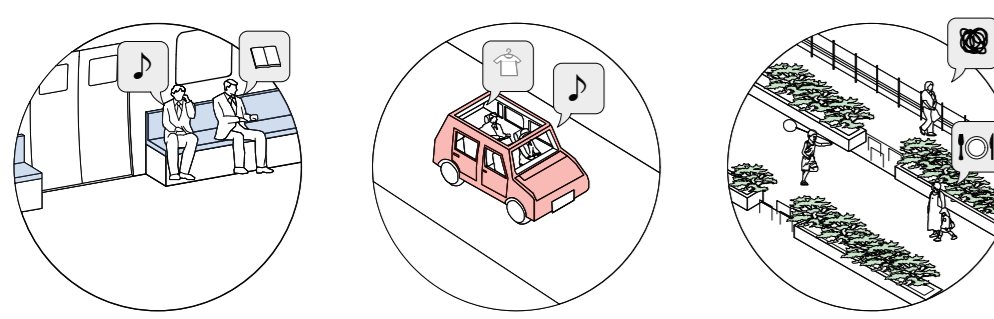
# 何もしない時間のある家

普段の何気ない通勤時間、晩御飯を考えながら歩く帰り道、ぼーっと歩く散歩の時間  
移動時間は案外貴重で、重要な時間である。

## 01. 失われつつある移動時間

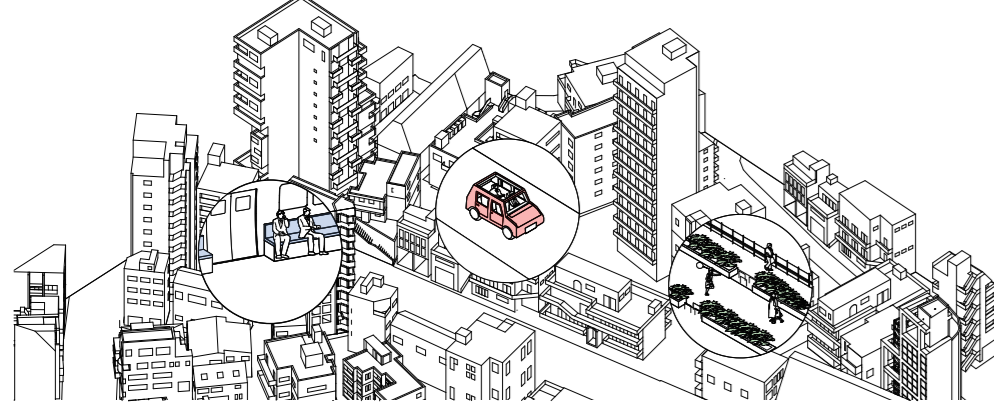


人々のライフスタイルは近年で大きく変化した。  
情報通信機器の普及に伴いネットショッピングや娯楽がより身近なものとなり、本来「住む」だけの住空間に「買い物」や「娯楽」等様々な生活が介入してきている。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大に伴うリモートワーク化から「職」までもが介入してきた今、住宅のみで生活が完結してしまふ家から会社やデパートなど、目的地までの移動時間が失われつつある。



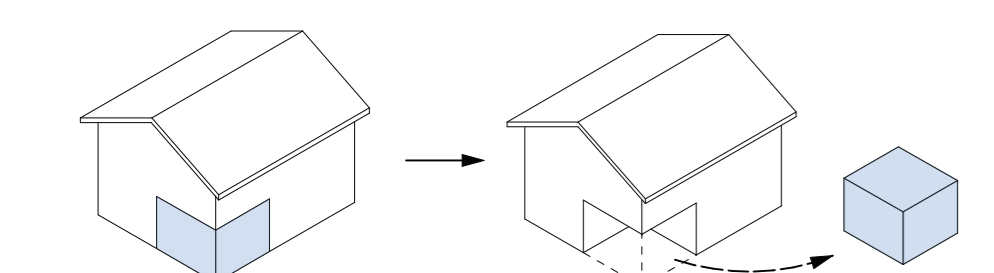
移動時間に何もせずぼーっとして周りの景色を眺めたり、考え事をしたりする時間は情報社会である現代において心ゆとりが持てる非常に重要な時間であると思う。仕事に行くまでの気持ちの切り替えであったり、学校の登下校時間に音楽やラジオを聴いたり、コロナ渦でオンライン化が進み、移動する機会がさらに減り、日常生活における移動時間は、貴重であり重要な時間であったと再認識したように思う。加速する情報社会や新型コロナウイルスの感染拡大により、「住む」以外の生活が介入し、飽和状態にある現在の住空間に対し、今までの生活では無駄のように思われていた移動時間のような価値を付加した住宅を提案する。

## 02. 「行動」と「風景」と「情報」



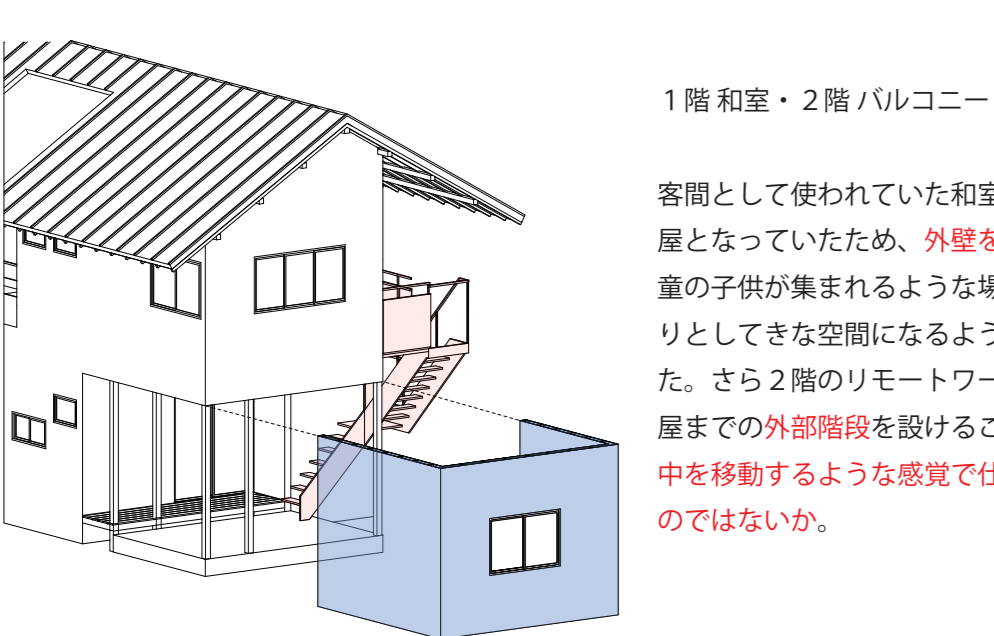
移動時間の価値を分析し、それらを生み出す要素を考えると、「行動の制限」「風景の切り替わり」「情報の取捨選択」の三つに分けることができた。移動時間では、移動するという行為によってその他の「行動が制限」され、無駄のない思考の時間が生み出されている。そして、ふと見上げた時の「景色の切り替わり」によって気持ちの切り替えも同時に行うことができる。その際、イヤホンをするなどある程度「情報を取捨選択」することで街の中での自分だけの空間を作り出し、目的地まで真っ直ぐ向かうことができる。

## 03. 減築による価値の付加



機能が飽和状態にある既存の住宅に対し、機能を減らしたり、壁を減らし外部にすることで行動を制限したり、生活空間と切り離し、必要以上の情報を無くすことにより移動時間のような価値を付加する。

## 05. 設計詳細



1階 和室・2階バルコニー  
客間として使われていた和室が、物置部屋となっていたため、外壁を減築し、学童の子供が集まれるような場所としてよりとしてきな空間になるように設計した。さら2階のリモートワークをする部屋までの外部階段を設けることで、街の中を移動するような感覚で仕事に迎えるのではない。



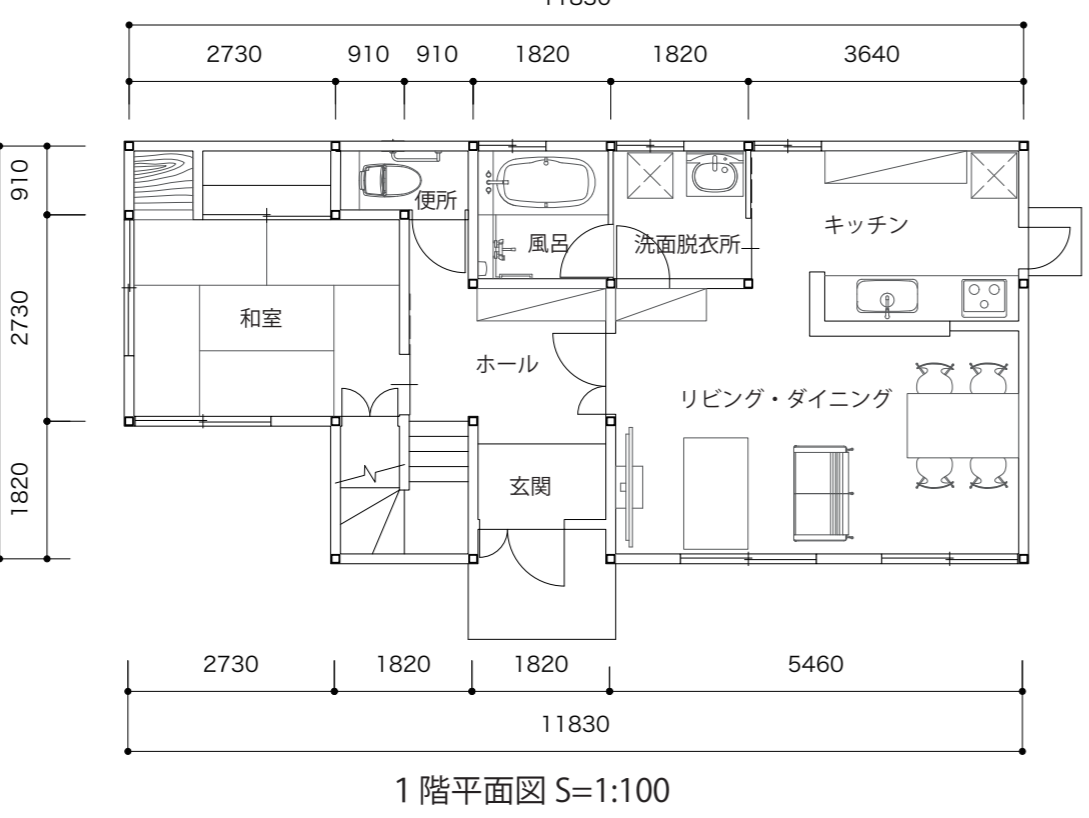
## 04. 対象建築物

対象建築物は愛知県名古屋市にある設計者の実家とする。  
北側隣地には学童保育所があり、子供達の活気に溢れている。家族構成は両親とその息子である設計者と姉の4人家族である。しかし設計者と姉は二人とも就職・進学により実家を離れ、現在は父と母の二人暮らしである。新型コロナウイルスの感染拡大により、父親のリモートワークが増え、以前設計者が使っていた部屋が父親の仕事場として使用されている。このように下宿や就職などで空いた子供が使用していた部屋を両親のリモートワークの部屋として利用されることは少なくない。二人暮らしとなり、空いた部屋や大きすぎる部屋などを減築し、価値を付加させた住宅を提案する。

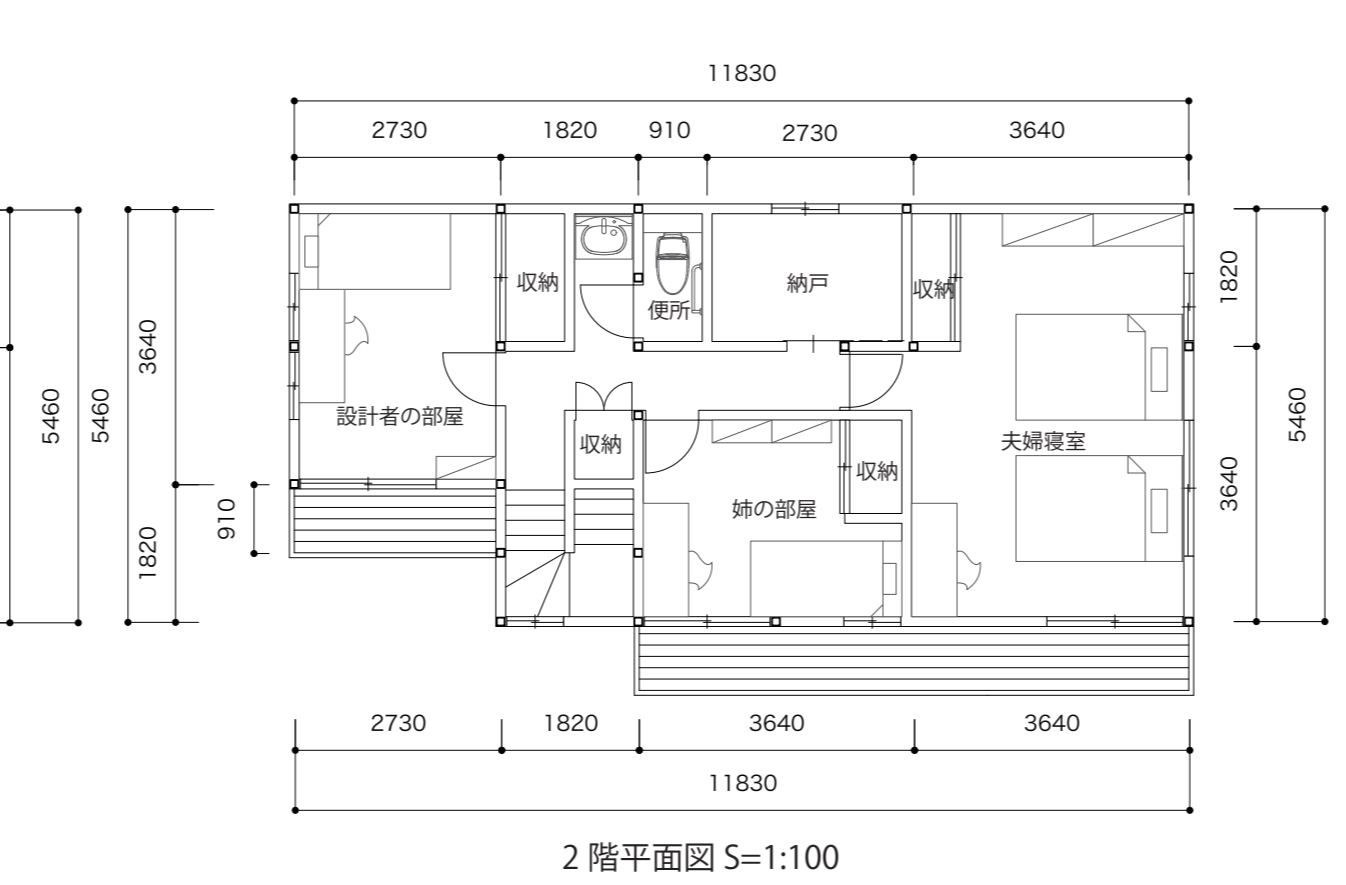


対象敷地

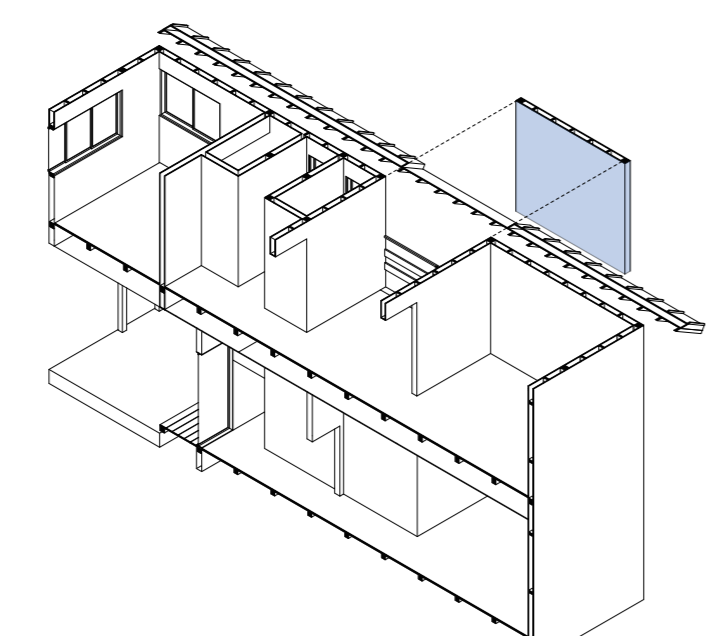
既存平面図



1階平面図 S=1:100

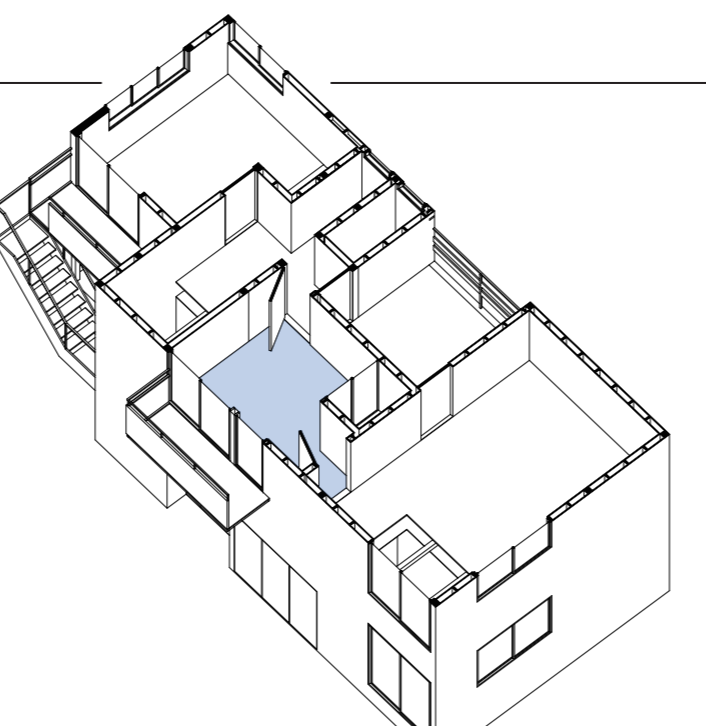


2階平面図 S=1:100



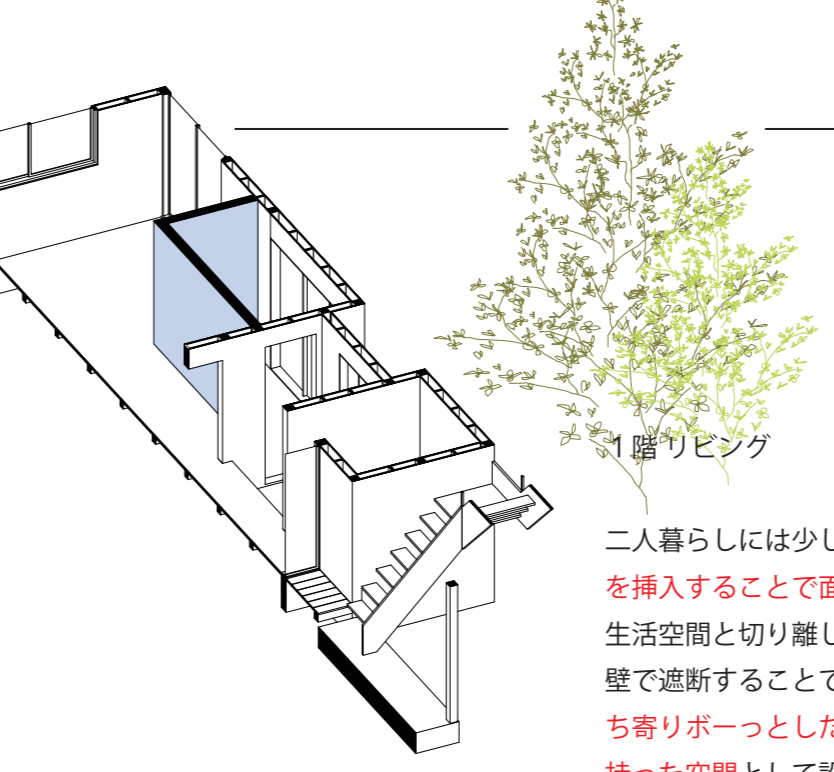
2階 納戸

2人暮らしとなりものが減ったことで、使わなくなった納戸の外壁を減築し、ふとした時に立ち寄り物思いにふられるような外部テラスとした。



2階 姉の部屋

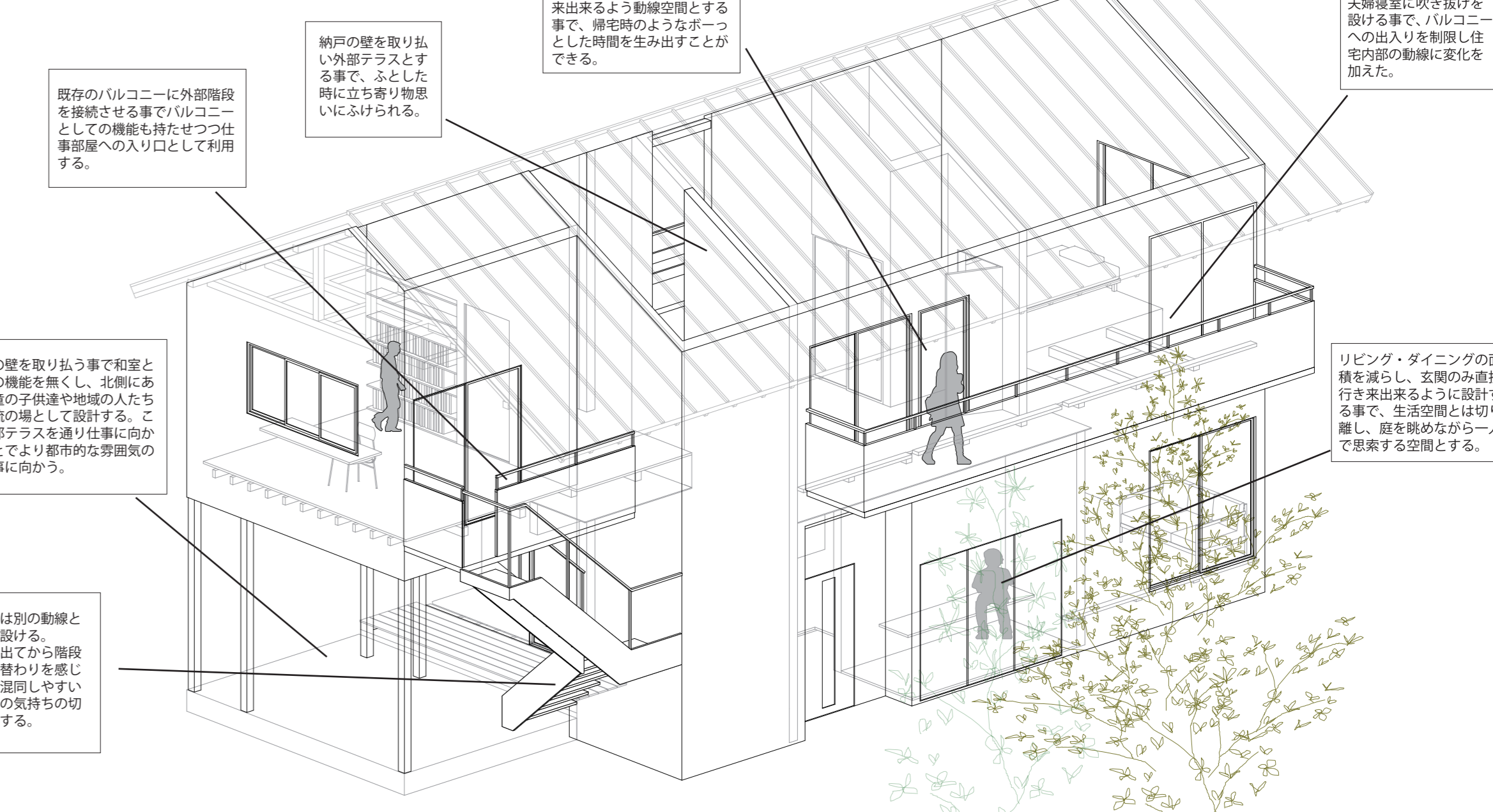
2階の廊下であった空間を外部にすることで、姉の部屋であった空間が動線として使われるようになる。さらに壁からバルコニーまでの動線も吹き抜けとする事で部屋としての機能が失くなり広い廊下となる。帰宅時間のような、目的はあるけれど、ある程度自由を許容した空間となるよう設計した。



1階リビング

二人暮らしには少し大きいリビングに壁を挿入することで面積を減らす。生活空間と切り離し、余計な情報をRCの壁で遮断することで帰宅の途中でふと立ち寄りボーっとしたくなるような性質を持った空間として設計をした。

## 06. 空間構成



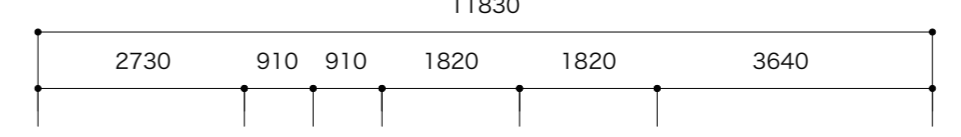
既存のバルコニーに外部階段を挿入させる事でバルコニーとしての機能も持たせつつ仕事部屋への入り口として利用する。

納戸の壁を取り払い外部テラスとする事で、ふとした時に立ち寄り物思いにふられる。

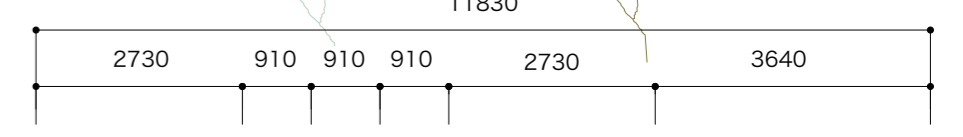
従来の2階の廊下を外部にする事で、夫婦寝室までの行き来出来るよう動線空間とする事で、帰宅時のようなぼーっとした時間を生み出すことができる。

夫婦寝室に吹き抜けを設ける事で、バルコニーへの出入りを制限し住宅内部の動線に変化を加えた。

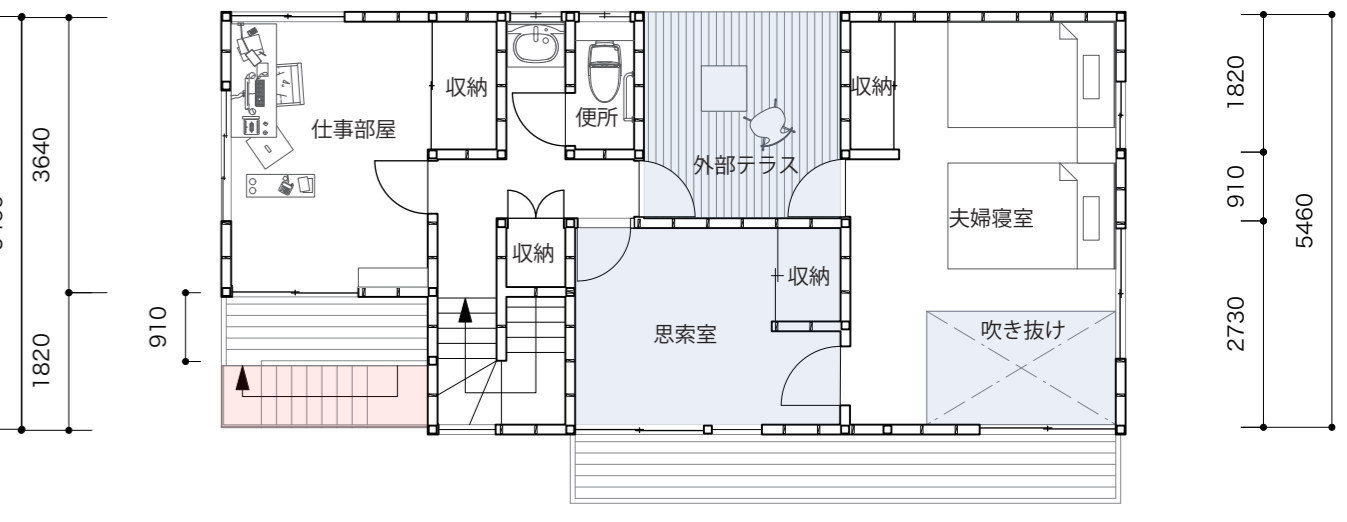
リビング・ダイニングの面積を減らし、玄関のみ直接行き来出来るように設計することで、生活空間とは切り離し、庭を眺めながら一人で思索する空間とする。



1階平面図 S=1:100



2階平面図 S=1:100



断面図 S=1:100

